新潟医福誌6（1）180・183

保健医療福祉連携教育研究会
—新設の意義と将来の展望—

矢谷令子

キーワード：保健・医療・福祉連携教育、 新しい学士課程教育、
教養教育と専門教育、 専門職間連携教育、
QOL サポーター

Collaborated educational resarch meeting with health professions

Reiko Yatani

keyword : Collaborated Education with Health Professions, New Undergraduate Education Culture Education and Professional Education, Collaborated Education for Health Professions interelationship, QOL Supportor

要旨

本研究会は本大学における「教育開発センター　FD委員会」の活動の一つとして行われてきたものを平成18年度5月より正式に「日本リハビリテーション連携科学学会」の自主研究会として新しく発足することになったものである。4年制大学としての学士課程教育に数種に亘る専門職教育を保健・医療・福祉に亘って有する本大学の使命と特徴を堅実に構築できるための教職員による研究会である。

Ⅰ．保健医療福祉連携教育研究会－発足経緯と意義－

1．本研究会経緯

・本研究会は平成17年11月に新潟医療福祉大学「教育開発センター　FD委員会・特別企画FD」に位置づけられ発足した。（当初の名称：「保健医療福祉教育学会－構想検討会－」

・平成18年5月より「日本リハビリテーション連携科学学会自主研究会」に登録の申請を行い、承認を受け新名称「保健医療福祉連携教育研究会」のもと活動を継続している。

・平成18年5月27日の上記学会理事会に登録申請し受理された申請書には、本研究会の主旨、目的、研究内容、研究活動が提示されている。（図1）

2．本研究会の意義

昨今にみる、高等教育界の動向から学士課程教育に関する見直し議論は多岐に亘り論議を呼んでいる。特に学士課程を二分する教養教育及び専門教育については原点をふまえつつも新しい在り方への真摯な模索が行われている。

現在、日本の社会においては教育の体制として6．3．3制に加え4年間の大学の教育期間がある。この学士課程が社会人として世に巣立つ最終教育段階と考えるとき、その教育的役割は非常に重要なものとなってくる。それは履歴の一部となり肩書きとなり社会人としてのパスポートになる。また、そのパスポートは個人にとって一生涯を支えるはずのものにもなる。世界の学生諸氏はそのパスポートで何処へ行き何をしようとするのか。同じことが新潟医療福祉大学の卒業生にも言える。逆に新潟医療福祉大学それぞれの学部学科教員一人一人は、卒業生に何を保証し何に確信をもって彼らを世に送り出そうとしているのか。学

新潟医療福祉大学教育開発センターFD委員会特別企画　保健医療福祉連携教育研究会担当

矢谷令子

［連絡先］〒950-3198 新潟県新潟市島見町1398番地
TEL 025-257-4455
FAX 025-257-4456

日本リハビリテーション連携科学学会
研究グループ登録申請書

申請者（代表者○）	所属	連絡先

グループの名称
保健医療福祉連携教育研究会

実施計画の概要（活動の趣旨，内容など）

主旨：保健医療福祉の領域に設けられた各専門職はその専門性を異にはしてもそれらのサービスを受ける対象者は皆一人の存在としての個人である。多くの異なる職員のサービスが、個人にわかりやすく専門性を発揮しつつも融合し、効果的に届けられる必要がある。専門職課程を修了した者が現場に就職してから各職種の連携を計るのではなく、これら保健医療福祉の教育段階において「多職種が連携したサービスを提供できる」人材育成が望まれる。本研究会は専門職高等教育における「連携教育」を研究することを主旨とする。

目的：保健医療福祉連携機関（教育機関、臨床施設、地域関連機関を含む）における「連携教育」のあり方を研究する。

研究会内容：
① 高等教育としての各専門職種課程、学士課程教育を中心に、教養教育と専門職教育の連携教育についてその必要性と重要性および教育技法について研究する。
② 各専門職間において、他職種の専門性の理解、尊重を深め、同時に連携する意義、およびそれらの連携教育技法について研究する。
③ 教育機関内部における連携教育とともに、各専門職の臨床・現場教育の場である医療、福祉、保健、教育等の実践の場との連携教育について、学習者の望ましい実践力育成を目指す連携実践教育法およびそのシステムのあり方について研究する。

研究会活動：第８回神戸学会における当自主研究会発足にむけて
① 新潟医療福祉大学教育開発センターを主体として教職員むけの本研究会の啓蒙、参加者募集活動を行う。
② 他の関連教育機関への本研究会の広報活動を行う。
③ 新潟医療福祉大学内では、月１回の研究会を faculty development 活動の一環として行う。
④ 本研究会の主旨に賛同する他の教育校、教職員との合同研究会、第８回神戸学会までに最低１回開催する。
⑤ 本研究会の組織と詳細な活動計画を立案する。

以上をもちまして、日本リハビリテーション連携科学学会に本研究会の研究グループ登録申請をいたします。どうぞよろしくお願い申し上げます。

申請受理	年	月	日
登録承認	年	月	日

図１　日本リハビリテーション連携科学学会　研究グループ登録申請書

生が手にする「卒業証書」こそ本学の理念とする「QOL サポーター」として働く知力、技能、そして何よりも人を思うやさしく強い心のパスポートではないだろうか。

４年間の教育は、まず自分から外に出、他人を思える人の育成、すぐれて信頼される専門家の育成に導くことであり学生諸氏と共にこの山坂を越えることである。保健医療福祉連携教育研究会は本学教職員にとって、この目的遂行のために必要となる自己研鑽の時であり同僚と切磋琢磨する場である。

本研究会の究極的意義は、

保健医療福祉連携教育法 → 卒業生の社会的貢献 → 対象者個人の QOL 獲得 につなげることである。

Ⅱ．本研究会の活動と将来展望

１．活動の経過

１）活動として ①学内研究班－（学内において行う研究会）②学外研究班－（学外関連機関共同研究会）を編成しそれぞれに企画、広報の担当員を置いた。研究会開催は月１回開催とした。（曜日時間別２回を準備、内容は同一とする）

２）学内活動研究発表内容（タイトルのみ紹介）

(1)本大学の理念と本学各学科の主張する学科の特徴との関係について

(2)小クラスの「オープンクラス授業」に見る“連携”について考える

(3)「保健医療福祉系専門職育成の一環としての英文読解力の育成についてⅠ、Ⅱ

(4)リベラルアーツ、教養教育と専門教育の現状

(5)保健医療福祉連携教育について－趣旨説明－

(6)教養教育と専門教育（リベラルアーツから－中教審答申－大学教育改革の支援）

(7)地域連携・協労・臨地実習指導体制へ向けて

３）学外活動研究会参加及び開催

(1)大学教育学会第 28 回大会－自由研究発表－ 2006.06.11（於：東海大学湘南校舎）「学士課程教育における教養教育と保健医療福祉関連専門職教育との連携」

(2)学内外参加型－保健医療福祉連携教育研究会第１回開催　2006.06.11（於：新潟医療福祉大学）

２．今後の課題と将来展望

本研究会が日本リハビリテーション連携科学学会の自主研究会として始動し半年が経過した。この間学内の広報的周知は行渡ったとしても内容的、研究的周知度は、始まったばかりといえる。今後とも多岐に亘る働きかけ、様々な研修や教育機会、教育環境の整備は精力的に継続されて行かねばならない。本研究会は内部活動及び外部活動の両分野から推進されて行くが、それぞれの今後に何を期待するか更に今後どのような将来展望がのぞめるのか現時点で以下の事項を考えてみた。（図２）

いつの世にあっても、人類が共通して求めるものに人生の QOL 追求がある。その見地から本大学の理念とする「QOL サポーター」の育成に本研究会の連携教育のあり方追求は直接間接、重要な役割を果たす。問題はどれだけ全教職員、全学生が本気で自分以外の対象者個人

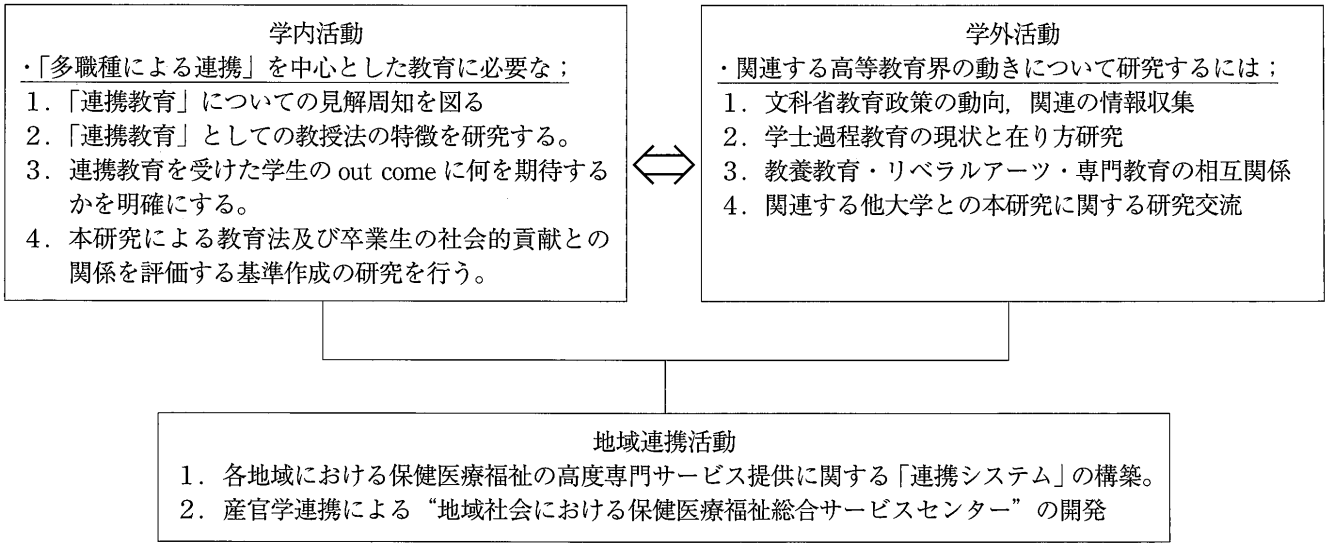

図２　保健医療福祉連携教育研究会活動現・将来構想

のQOLのために時間と誠意、専門的努力をはらえるかが究極の課題となる。

展望としては、今後本学FD委員会の研究会として活動を継続するとともに母会である日本リハビリテーション連携科学学会の自主研究会として本格的な活動を展開することになる。この連携教育の考え方は各大学の異なる領域においても共有される課題と考えられる。今後とも志を同じくする研究者によって本研究会が発展していくことを希望的展望とする。